

品質・環境報告書

2018



中京化成工業株式会社

活動レポート(品質・環境) - 2018 -

中京化成工業(株)は、1999年11月26日にISO9001の認証取得に続き、

2004年6月18日にISO14001の認証を取得しました。

今年度も品質と環境のマネジメントシステムの確実な運用を目指して、品質目標と環境目標を可能な限り統合して設定・運用するように努めました。

また、2015年版改訂にも早期に対応すべく、2016年にISO9001の移行を、2017年にISO14001の移行を完了しております。

品質・環境方針／品質・環境目標

品質・環境方針

当社は、品質・環境マネジメントシステムの最上位の「基本方針」に当社の取り組む決意と姿勢を表明すると同時に、より具体的に、かつISO9001、ISO14001規格に適合した「品質・環境方針」をまとめて制定しております。

「品質・環境方針」 2016年6月制定

品質基本方針

- ① 我社の製品は常に優秀である。
- ② 我社は製品の品質で勝負する。

環境基本方針

- ① 我社は自然と共生することに最大の関心を払う。
- ② 我社は環境配慮型製品の開発を進める。

品質・環境方針

1. 当社の各事業活動、製品及びサービスを踏まえた品質・環境マネジメントシステムを構築します。また、蓄積された潤滑理論をベースに自動車関連、グリース関連、工業用機械関連、金属加工関連、離型・剥離剤関連、洗浄剤関連などの分野で顧客と地域社会に貢献します。
2. 変化する諸条件及び情報を反映した品質・環境目標を事業年度毎に設定し、運用し、定期的に見直すことにより、品質・環境マネジメントシステムの有効性の継続的改善に努めます。
3. 環境法規、条例、規制や当社が合意したその他の要求事項を順守します。
4. 顧客満足の上昇、環境負荷の低減と汚染の予防及び環境保護に努めます。
5. 全従業員に教育訓練と啓蒙活動を実施すると共に、ビジネスパートナーに対しても理解を求め協力して運用します。

2016. 6. 1

中京化成工業株式会社

代表取締役社長

廣野 拓

2018年度 品質・環境目標

「品質・環境方針」をベースに、当社の活動・製品・サービスから特定された「著しい環境側面」、法的及びその他の要求事項、当社を取り巻く内外の課題、更に利害関係者のニーズと期待より、「リスクおよび機会」を特定しております。さらにこれを考慮して各年度に「全社目標」、「品質・環境目標」を決めて対応し、その施策の実現に取り組んでおります。

全社目標（品質）

- ①顧客重視
- ②品質（Q、C、D）管理の向上
- ③供給者との互惠関係の強化
- ④予防処置

全社目標（環境）

- ①環境配慮型製品の開発と販売促進
- ②資源・エネルギー・廃棄物の削減
- ③法規制及び組織が同意するその他の要求事項の順守
- ④予防処置

部 門	品質・環境目標		
	内 容	目 標 値	
営業1部	顧客の要望している環境配慮型製品の販売	年間売上 7,500万円	
営業2部	顧客の要望している環境配慮型製品の販売 〔油煙対策油・汚れ対策油・臭気対策油・再生油・ CLフリー油・鉛フリー油・ボンデフリー油・他〕	年間売上 8,000万円	
営業3部	顧客の要望している環境配慮型製品の販売 (水溶性離型剤(ラッシュコート)・水溶性エアゾール)	年間売上 1,700万円	
業務購買部	外注先要因によるクレームの防止	0件	
	現業による人材交流(製造部と合同)	年間3回	
	倉庫の2S	年間6件の改善	
製造部	公開段取り(仕込み)の実施	4回/年	
	工程フロー図、作業標準の見直し	33件	
	原材料在庫の見える化	主原料50品種	
	現業による人材交流(業務購買部と合同)	3回/年	
技術研究所	研究開発1課	顧客要望を取り入れた環境配慮型製品の開発	900万円
	研究開発2課	顧客要望を取り入れた環境配慮型製品の開発	900万円
	研究開発3課	顧客要望を取り入れた環境配慮型製品の開発	900万円
	合計	顧客要望を取り入れた環境配慮型製品の開発	2,700万円
品質保証部	品質の向上(沈殿等管理)	2017年度沈殿の合った製品の50%	
	電気使用量の削減	2017年度実績以下	
総務部	業務効率化	1件/月	

2018年度 品質・環境目標&実績

各関係部門において「品質・環境目標」を設定し、その達成に向けて取り組みました。仔細は次頁の通り。

部 門		環境目的	目標	実績	評価	
1. 増 業績の向上	営業1部	顧客の要望している環境配慮型製品の販売	年間 7,500 万円	7,191 万円	(^_^)	
	営業2部	顧客の要望している環境配慮型製品の販売	年間 8,000 万円	8,107 万円	(^_^)	
	営業3部	顧客の要望している環境配慮型製品の販売	年間 1,700 万円	2,424 万円	\(^o^)/	
	技術 研究 所	研究開発1課	顧客要望を取り入れた環境配慮型製品の開発	年間 900 万円	1,025 万円	\(^o^)/
		研究開発2課	顧客要望を取り入れた環境配慮型製品の開発	年間 900 万円	1,085 万円	\(^o^)/
		研究開発3課	顧客要望を取り入れた環境配慮型製品の開発	年間 900 万円	871 万円	(^_^)
		合計	顧客要望を取り入れた環境配慮型製品の開発	年間 2,700 万円	2,981 万円	\(^o^)/
	品質保証部	品質の向上（沈殿等管理）	20 件	14 件	m(_ _)m	
総務部	業務効率化	1 件/月	1 件/月 作成	(^_^)		
2. 減 不具合の削減	業務購買部	外注先要因によるクレームの防止	年間 0 件	2 件	m(_ _)m	
		倉庫の2S	年間 6 件の改善	6 件	(^_^)	
	製造部	公開段取り（仕込み）の実施	4 回	1 回	m(_ _)m	
		工程フロー図、作業標準の見直し	33 件	31 件	(^_^)	
		原材料在庫の見える化	主要原料 50 品種	53 品種	(^_^)	
		現業による人材交流（業務購買部と合同）	年間 3 回	3 回	(^_^)	
	品質保証部	電気使用量の削減	2017 年度実績以下	0.8%減	(^_^)	

評価の凡例

\(^o^)/ : 目標値を10%以上達成しました！
 (^_^) : ほぼ目標値
 m(_ _)m : 目標値の90%以下に終わりました

各部のコメント

テーマ	部門	達成率（目標対比）	コメント
顧客の要望している環境配慮型製品の販売	営業1部	95.9%	全体的に価格による受注減により、目標未達となりました。次年度は各種キャンペーンを活用し販売増・目標達成に努めます。
顧客の要望している環境配慮型製品の販売	営業2部	101.3%	今年も活動していく中で、環境配慮型製品に対する顧客のニーズは留まることを知らず、今後も十分にビジネスチャンスとなり得る案件であることを改めて実感しました。
顧客の要望している環境配慮型製品の販売	営業3部	142.5%	7月以降の新規採用による増販が大きく影響しました。次年度も新規採用による増販が目標達成のためには効果的であると認識しました。
顧客要望を取り入れた環境配慮型製品の開発	研究開発1課	113.9%	前半は思う様に売上げに結びつけることができませんでした。後半は盛り返すことができました。環境配慮型製品の開発は当方の認識とユーザー様の認識をまとめることが重要です。今後も直接アプローチを通して目標達成に努めます。
顧客要望を取り入れた環境配慮型製品の開発	研究開発2課	120.6%	環境配慮型製品の開発は紹介からテストまでの期間が長いため、下半期の実績上昇で目標達成に繋がったと思われます。次年度は早期目標達成のために開発の効率化を目指します。
顧客要望を取り入れた環境配慮型製品の開発	研究開発3課	96.8%	上半期まで目標達成率が34%となり、後半巻き返しましたがわずかに不足しました。次年度は新人の開発力も上がり開発スピードや質の向上が見込まれるため目標達成の期待が持てます。
品質の向上（沈殿等管理）	品質保証部	70.0%	目論見が甘く実際の対策が困難であったこともあり目標未達となってしまいました。ただし、多く沈殿が発生してしまう製品はおおむね対策が検討できたと思います。
業務効率化	総務部	1件/月	計画通り推進することができました。来期はより具体的な内容を込めたスケジュール表を作成していきます。

各部のコメント

テーマ	部門	達成率（目標対比）	コメント
外注先要因によるクレームの防止	業務購買部	2件	今年度はスプレー関連で2件のクレーム発生でした。スプレーの新規開発品は次年度も増えてくると考えられます。外注先監査が掛け声だけで終わることのないような取組みをしていきます。
倉庫の2S	業務購買部	100.0%	オイル工場新設工事に伴い、部門として柔軟に対応を行ってきました。ドラム、缶ともに円滑な移管・2Sを進めることができました。
公開段取り（仕込み）の実施	製造部	25.0%	計画が予定通り行えなかった要因としては、想定以上に時間にゆとりがなく計画自体が甘かったと考えております。その中でも1件実施でき、多くの指摘を頂いたことは今後の生産活動に役立つ良い経験だったと考えております。
工程フロー図、作業標準の見直し	製造部	93.9%	目標未達とはなりましたが、新オイル工場運用前に数多くの見直しができ次年度以降の基礎ができたと感じています。工程フロー図、作業標準には情報量が不足しているように思われるので、品質保証部や技術研究所と改善に向けて更に活動して参ります。
原材料在庫の見える化	製造部	106.0%	目標品種数は達成しましたが、見える化の方法には改善の余地があると考えています。次年度は今年度の取組みを更に強化すべく置場管理を重点に検討して参ります。
現業による人材交流（業務購買部と合同）	製造部	100.0%	当初予定していました作業交代と言う形では行えませんでした。実施内容については満足のいく結果となりました。今後も計画を立てて順次部員に研修をさせたいと考えています。
電気使用量の削減	品質保証部	100.1%	5月から把握する対象期間が変更したので直接的比較が難しくなっておりますが、通年では昨年度とほぼ同じ結果となりました。次年度は新工場の立ち上げがあり本年度と同様に昨年対比は難しいかもしれませんが、日々の業務の中で「無駄な電気使用」を削減するように推進します。

中京化成工業株式会社 環境への各種取り組み



工場内掲示



ヒューマンエラーを引き起こす12の原因

1. 無知、未経験、不慣れ
半可しか知らなかったことなどによるエラー
2. 危険軽視、慣れ
ついつい、といった動作や悪習慣から発生
3. 不注意
作業などに集中して周囲に注意を払わず
4. 連絡不足
安全指示が正しく伝わらないことによるエラー
5. 集団欠陥
集団特有の悪習慣や突貫工事中の現場の雰囲気
6. 近道・省略行動本能
動作・行動の簡素化によるエラー（=楽をしたい）
7. 場面行動本能
ある場面に遭遇し、とっさにとった行動で
8. パニック
非常な驚き、驚愕反応＝パニック、あわて
9. 錯覚
見間違い・聞き違いや思い込み
10. 中高年の機能低下
40才頃から忍び寄る機能低下が原因に
11. 疲労
炎天下や長時間労働等による身体的疲労から
12. 単調作業による意識低下
単調な動作の繰り返しによる意識の低下



ペール缶加締め方法



倉庫入り口の改良



緊急事態への対応

- ・漏洩テスト
- ・非常呼集、消火訓練（防災教育）





中京化成工業株式会社

CKK CHUKYO KASEI KOGYO CO., LTD.

ISO9001:2015 (JQA-QM3984)

ISO14001:2015 (JQA-EM4081)

〒448-0008

愛知県刈谷市今岡町西吹戸 10-1

TEL: (0566)36-3690 (代表)

FAX: (0566)36-6156

URL: <http://www.c-k-k.co.jp>

10-1, Nishifukido, Imaoka-cho

Kariya-City, Aichi-Pref., JAPAN

TEL: 0566-36-3690 (General Line)

FAX: 0566-36-6156